

埴輪からみた古墳時代の衣服

大正大学 塚田良道

1 埴輪の変遷

古墳時代 = 前方後円墳の作られた時代（3世紀中頃～6世紀末）

(1) 古墳時代前期（3世紀中頃～4世紀後半）

配置場所：後円墳頂部の埋葬施設を囲む方形区画

主な種類：前半 円筒、壺

後半 鶏、家、および

蓋、盾、鞆、鞆、甲冑などの器財

・・・武具で守る

例）三重県伊賀市石山古墳（図1）

(2) 中期前半（4世紀後半～5世紀中頃）

配置場所：周濠の島や墳丘くびれ部の造り出し

主な種類：周濠に水鳥

例）大阪府藤井寺市津堂城山古墳（図2）

造り出しに家、その下の谷間に船などを配置。

(3) 中期後半～後期（5世紀中頃～6世紀末）

配置場所：中堤、造出し

主な種類：馬（動物）、★人物

・・・関東地方で大流行 = 人物埴輪出土遺跡の7割が関東に集中

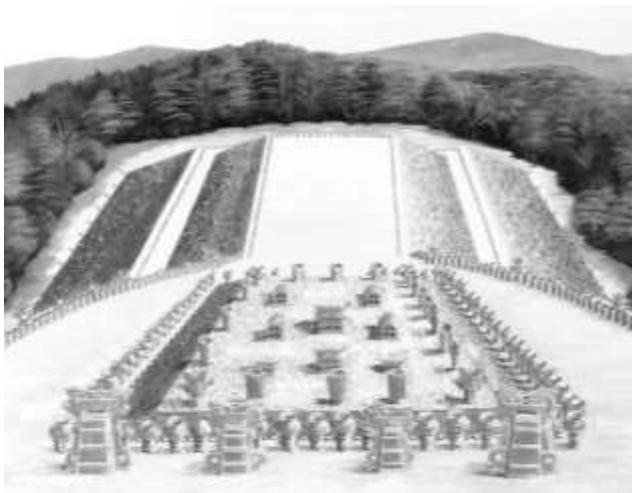
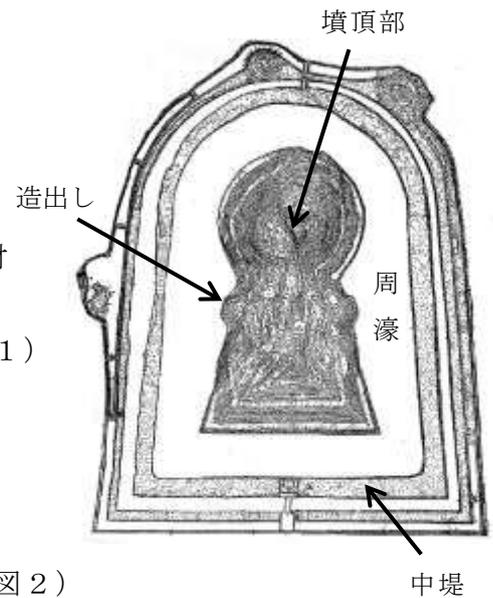


図1 前期の配列（三重県石山古墳）



図2 中期前半の配列（藤井寺市津堂城山古墳）

2 人物の造形

「…埴輪の人馬の形像は、壺甕などの容器や、円筒の如き工芸品を作った土師部の工人が、葬祭の儀礼の変化と共に彫塑の方面にも進出した結果に過ぎないのでありますから、固より美術として其の造形に多大な期待をかけることは出来ないのであります。…」

(濱田耕作『考古学研究』座右宝刊行会 1939)

「…埴輪人形を近くからではなく、三間、五間、あるいはそれ以上に、時には二、三十間の距離を置いて、ながめてみる必要があるように思う。それによって埴輪人形の眼は実に異様な生気を現してくるのである。もしこの眼が写實的に形作られていたならば、少し遠のけばはつきりとは見えなくなるであろう。しかるにこの眼は、そういう形づけを受けず、そばで見れば粗雑に裏までくり抜いた空洞に過ぎないのであるが遠のけば遠のくほどその粗雑さが見えなくなり、魂の窓としての眼の働きが表面に出てくる。…」

(和辻哲郎「人物埴輪の眼」『和辻哲郎随筆集』岩波文庫 1995)

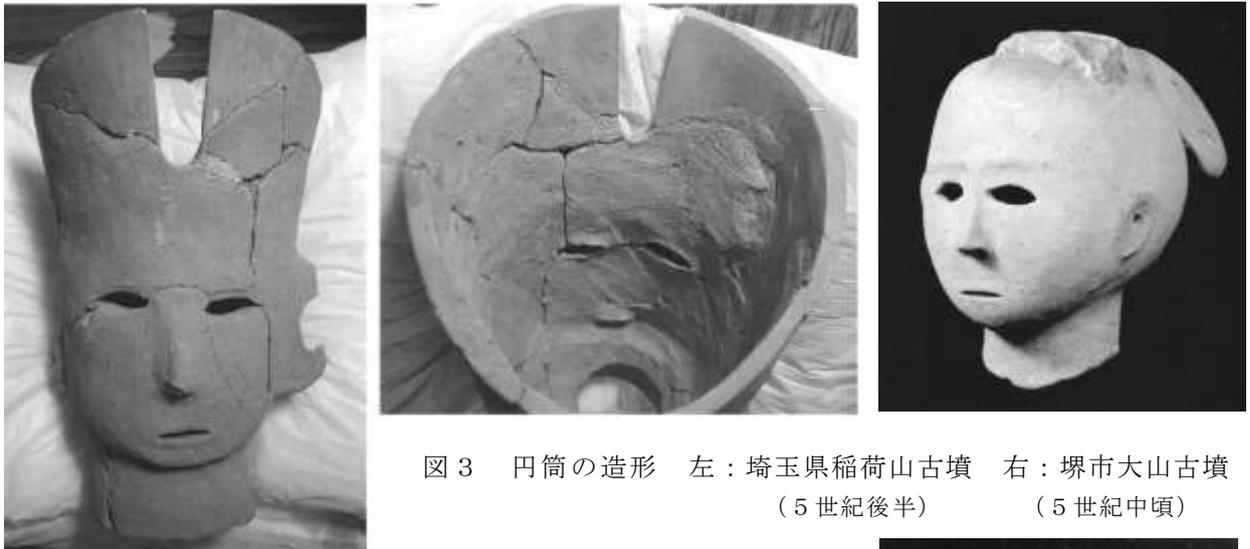


図3 円筒の造形 左：埼玉県稲荷山古墳 (5世紀後半) 右：堺市大山古墳 (5世紀中頃)



図4 性差の造形 左：栃木県鶏塚古墳 (6世紀後半) 中・千葉県姫塚古墳 (6世紀後半) 右：群馬県出土 (6世紀か)



図5 男女の省略表現 (埴輪 左:埼玉県酒巻14号墳 右:同生出塚埴輪窯 6世紀後半)
 ①削除…眼球、衣服のあわせ目、指、脚 ②変形…体の比率、髻、腕の長さ

3 女性の衣服

①基本形

上衣 …帯なし

紐で二か所を結ぶ

下衣 …「裳」 プリーツ

➡ 朝鮮半島の女性衣服と共通

②袈裟状衣と襷・帯

後藤守一の「オスヒ」説

(「所謂袈裟状衣着用埴輪について」

『考古学論叢』第三輯 1936)

袈裟状衣 ⇨ 「意須比」

+ 鈴鏡 ⇨ 宗教用具

➡ 巫女説を主張

しかし、バスタオル大の一枚布を斜め掛け、その上にタスキと帯を巻いている。二丈五尺(7m50cm)もない。

➡ 采女のヒレとタスキ
 = 食膳奉仕の姿



図6 女性の衣服

群馬県伊勢崎市出土

群馬県大泉町出土

【意須比（オスヒ）史料】

ひさかたの 天の原より 生れ来たる 神の命 奥山の 賢木の 枝
に しらか付く 木綿取り 付けて 齋瓮を 齋ひほりす 竹玉を
しじに 貫き垂れ 鹿じもの 膝折り 伏して 手弱女の 押日取り
懸け かくだにも 我は祈ひなむ 君に逢わじかも

『万葉集』卷三・三七九 大伴坂上郎女の神を祭りし歌

帛意須比八端。長各二丈五尺。弘。

『皇太神宮儀式帳』出坐御床装束七十二種

帛意須比八條 長二丈五尺 廣二幅 『延喜式』大神宮装束

【肩巾（ヒレ）史料】

毛志紀能 淤富美夜比登波 宇豆良登理 比禮登理加氣豆
(ももしきの おおみやびとは うずらとり ひれとりかけて)

『古事記』雄略記

亦膳夫。采女等之手纏。肩巾。肩巾。此 並莫着。

云二比例一。

『日本書紀』天武二年（六八二）三月辛酉詔

皇御孫命朝乃御膳。夕乃御膳供奉流比禮懸伴緒、襷懸伴緒雄乎。

『延喜式』祝詞大殿祭

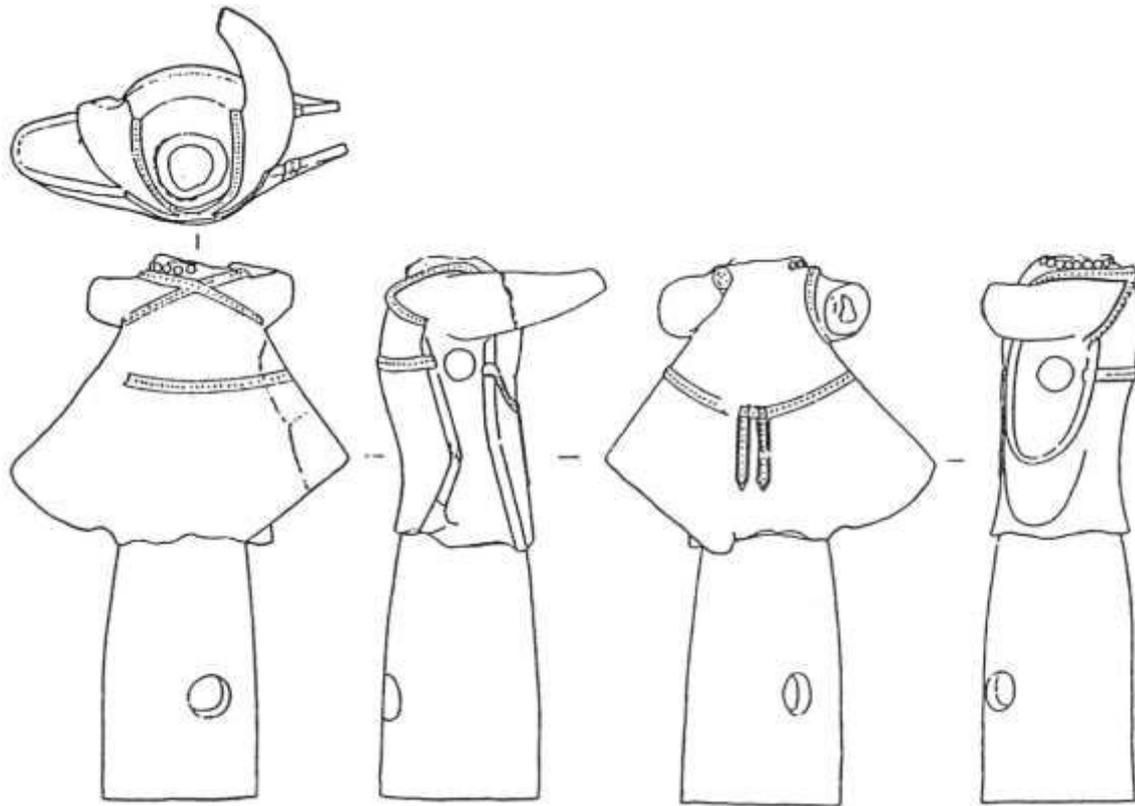


図7 女性埴輪の袈裟状衣 奈良県勢野茶臼山古墳（6世紀後半）

4 男性の衣服

①基本形

高橋健自の説 (1927『日本服飾史論』大鏡閣)

上衣 ……盤領 (あげくび) 左衽
紐で二か所を結ぶ

下衣 ……「禪」はかま べんぼ
「脚帯」 あゆい=乗馬

➡ 中国北朝の男性衣服と共通

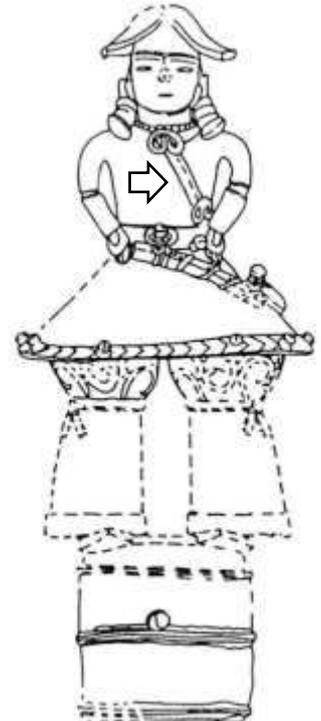
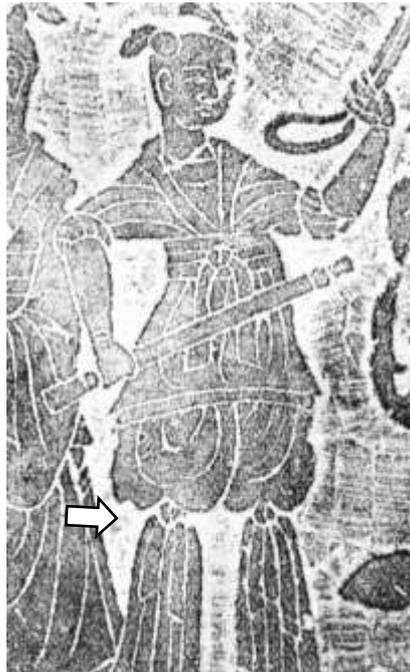
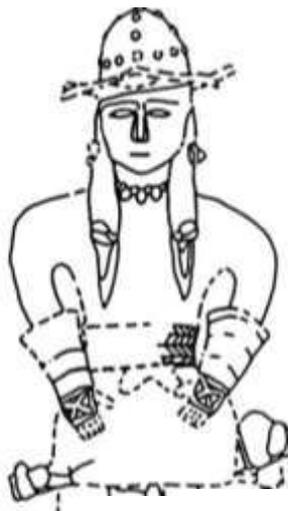


図8 男性の衣服 左から北齊婁叡墓(570年) 北魏石刻画(521年) 群馬県綿貫観音山古墳 (6世紀後半)



②被り物と大帯

…上層階級の身分表示 (下げ美豆良も)

・鏢付帽、冠帽
額当式冠

➡ 朝鮮半島系譜

・広帯二山式冠

➡ 倭の冠
埴輪表現少ない



図9 男性の被り物と衣服

(上段左から順に)

群馬県綿貫観音山古墳

群馬県塚廻り3号墳

神奈川県蓼原古墳

福島県神谷作101号墳

茨城県舟塚1号墳

(6世紀)

※連続三角文
…死者の文様?

【男性坐像史料】

ここに男大迹天皇、晏然自若として胡床に踞坐す。陪臣を齊（と）との（え）列ねて既に帝の坐すが如し。

『日本書紀』繼体元年正月条

倭王は天を以て兄と為し、日を以て弟と為す。天未明の時、出でて政を聴くに、跣（か）ふして坐す。

『隋書』倭国伝

吉野幸行の時（中略）其処に大御呉床（おおみあぐら：腰掛）を立て、坐して御琴を弾き。

『古事記』雄略記

【男性立像史料】

天皇朝廷尔仕奉留比禮挂伴男。手襪挂伴男。鞞負伴男。劍佩伴男。伴男能八十伴男。（…舍人||宮廷警護の武人）

『延喜式』祝詞大祓

凡兵衛は、国司が郡司の子弟にして強幹、弓馬に便なる者を簡び、郡別に一人貢げ。（…兵衛||近衛舍人）

『令義解』軍防令

楯並めて 伊那佐の山の 木の間ゆも い行き守らひ 戦へば…（久米歌第6首）

今久米部が歌ひて後に大いに笑ふは、これその縁なり。

（久米歌第4首）

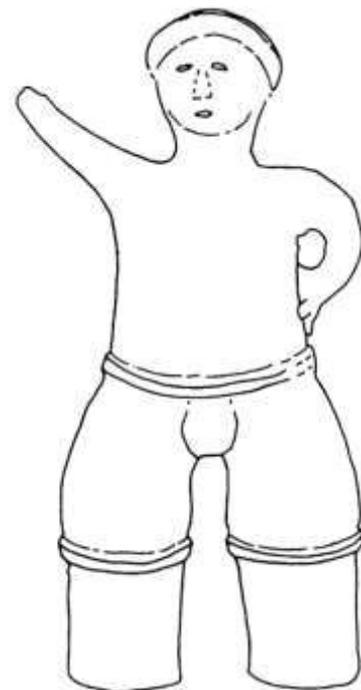
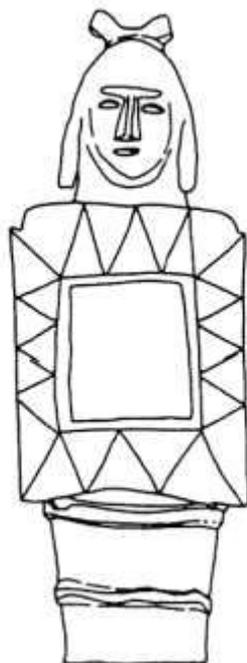
『日本書紀』神武天皇条

③職掌と身分にあった服装 甲冑武装、盾持ち、力士など



図 10 男性埴輪の服装

左から、群馬県太田市出土 埼玉県女塚古墳 福島県原山1号墳
(5世紀後半) (5世紀後半)



④「踊る埴輪」は馬子

「皇室博物館所蔵上野国佐波郡剛志村大字上武士発掘の土偶群は…（中略）…太鼓を打つとか（第6図）、壺を叩くとか、琴を弾ずる（第7図）という様に、音楽を奏する男子像三個があり、…（中略）…この奏楽団に対しては同じ皇室博物館所蔵、武蔵国大里郡小原村大字野原発掘のもので、余の『踊る男女』と命名した二個の人物像である（第9図）。…（中略）…半ば揚げた手、胸に扼した手、高く歌へるが如き口許に、踊りつつ歌ふ男女を想定する事が出来る」後藤守一「埴輪の意義」『考古学雑誌』1931-第1号

…「踊る埴輪」は姿から想像した名称。

➡ 片腕を掲げる男性半身像は馬子！



図 11 踊る埴輪：埼玉県野原古墳

馬子と馬：埼玉県酒巻14号墳（6世紀後半）

⑤朝鮮半島の衣服をきた男性（渡来人）



図 12 埼玉県酒巻14号墳(6c 後半)

高句麗・舞踊塚古墳壁画(中国吉林省5c 初)

同・双楹塚古墳(北朝鮮 5c 後半)

5 人物の配置と衣服の関係

- 第1形式 坐像群 ……最上階級の男女 + 奏楽
- 第2形式 女性立像……食膳奉仕の女性たち
- 第3形式 男性全身立像……上層階級の男性（近侍、武人）+ 力士
- 第4形式 片腕を掲げる男性半身立像と馬形埴輪……出御の侍者 + 動物埴輪群
- 第5形式 盾持男性立像……墓域を警護する下層の武人

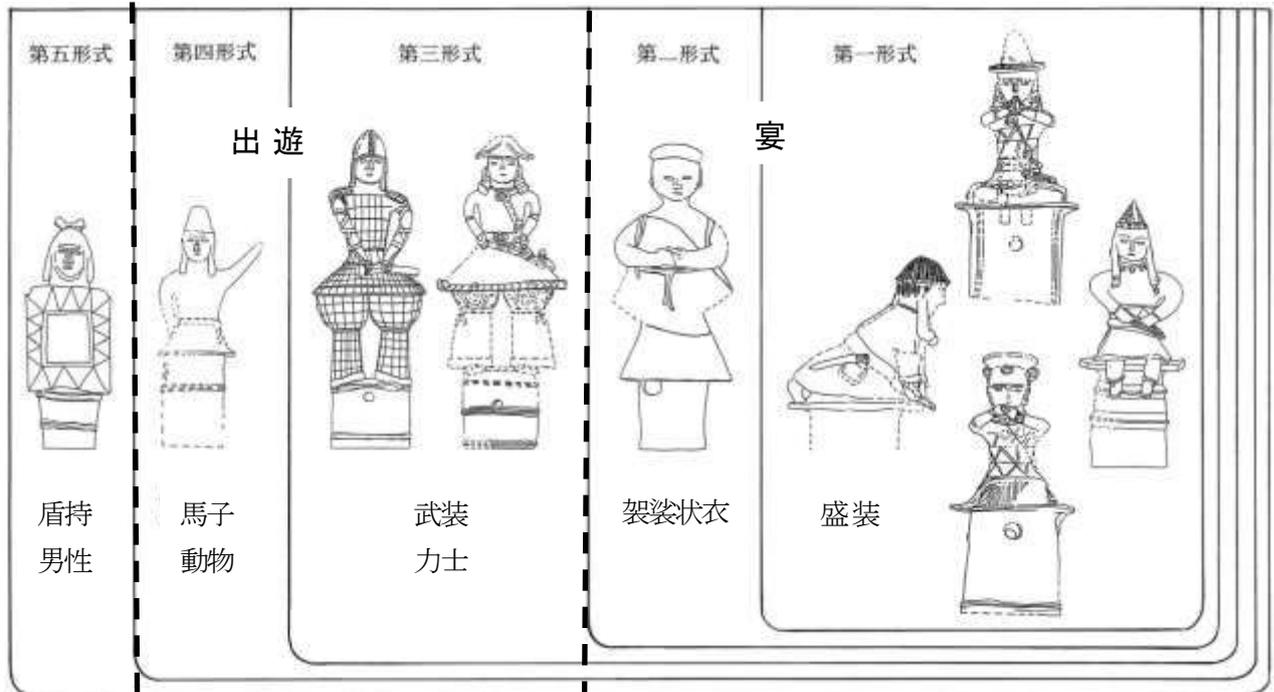


図13 身分と職掌に応じた衣服と配置（塚田 2007）

■人物埴輪に関する拙著

- 『人物埴輪の文化史的研究』雄山閣 2007
- 『埴輪を知ると古代日本人が見えてくる』洋泉社新書 2015
- 『さきたまの古墳と古代史』まつやま書房 2025

■図版出典

- 図1 国立歴史民俗博物館 2003『はにわ-形と心-』（京都大学総合博物館作図）
- 図2 藤井寺市教育委員会 1995『倭の五王（讚・珍・濟・興・武）の時代』
- 図3 女性埴輪 宮内庁書陵部・三の丸尚蔵館 2017『古代の造形—モノづくり日本の原点』
- 図4 左右の人物埴輪 国立歴史民俗博物館 2003『はにわ-形と心-』
髭の男性埴輪 城倉正祥編 2017『殿塚・姫塚古墳の研究—人物埴輪の三次元計測調査報告書—』
- 図5 和服女性 小川一真 1892『東京百美人 geisha of tokyo』
酒巻14号墳女性埴輪 行田市郷土博物館 2007『はにわ-酒巻古墳群の世界-』
生出塚埴輪窯出土男性埴輪 埼玉県立博物館 2003『めざめろ古代』
- 図7 女性埴輪 奈良県教育委員会 1966『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第23冊
- 図8 婁叡墓図 徐光冀主編 2011『中国出土壁画全集』第2巻山西省
北魏石刻画 高橋健自 1927『日本服飾史論』大鏡閣
- 図9 塚田良道 2010「埴輪の三角文」『鴨大史学』第10号
- 図11 野原古墳人物埴輪 塩野博 2004『埼玉の古墳』大里 埼玉新聞社
酒巻14号墳人物と馬形埴輪 塩野博 2004『埼玉の古墳』北埼玉・南埼玉・北葛飾 埼玉新聞社
- 図12 酒巻14号墳人物埴輪 同上
壁画人物図 早乙女雅博編 2005『高句麗壁画古墳』共同通信社

※その他の写真は塚田撮影、図は塚田良道 2007『人物埴輪の文化史的研究』雄山閣による。